

横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和3年7月号 目次

【検査結果】

医動物・種類同定検査結果（令和3年4月～6月）	1
公衆浴場水の水質検査結果（令和2年度）	4

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和3年6月）	8
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和3年6月）	10
----------------------------	----

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

医動物・種類同定検査結果(令和3年4月～6月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区の福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和3年4月から6月の3か月間の種類同定検査報告件数は、昆虫類8件(ハエ目2件、ハチ目1件、カメムシ目5件)、その他の節足動物3件(ダニ目1件、クモ目2件)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等 (相談月)	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
<p>公園内の水景施設付近から発生した虫が、マンションに飛来する可能性があるため、水景施設の採取水を調べてほしいとの相談があった。 (4月)</p>	 <p>①成虫、茶褐色、約2mm</p>  <p>⑤脱皮殻、茶褐色</p>	<p>①ハエ目の成虫 ②ハチ目成虫の虫体の一部 ③カメムシ目(アブラムシ類)の成虫 ④カメムシ目の脱皮殻 ⑤ハエ目の脱皮殻</p>	<p>採取水中の①～④は、池等の水系に生息することはない。 また、⑤は水中に生息する種である。</p>
<p>マンション敷地内の水景施設A付近から発生した虫が、マンションに飛来する可能性があるため、水景施設の採取水を調べてほしいとの相談があった。 (4月)</p>	<p>水景施設A</p>  <p>脱皮殻、半透明</p>	<p>カメムシ目の脱皮殻</p>	<p>採取水中のカメムシ目は、池等の水系に生息することはない。</p>

相談内容・発生状況等 (相談月)	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
<p>マンション敷地内の水景施設B付近から発生した虫が、マンションに飛来する可能性があるため、水景施設の採取水を調べてほしいとの相談があった。 (4月)</p>	<p>水景施設B</p>  <p>①成虫、半透明、約1.5mm</p> <p>②幼虫、半透明、約1mm</p>	<p>①カメムシ目(アブラムシ類)の成虫 ②カメムシ目の幼虫</p>	<p>アブラムシ類は通常春から秋にかけて発生し、いろいろな植物を好んで寄生する。初夏には有翅形の雌が現れ、寄生植物へ移動する種が多くみられる。 なお、池等の水系に生息することはない。</p>
<p>自宅の窓のサッシ付近に多数の小さな虫がみられる。 (4月)</p>	 <p>成虫、赤褐色、約0.8mm</p>	<p>クローバーハダニ (ダニ目)</p>	<p>雌の体長は0.8~0.9mmと大型。雄は存在しない。 イネ科植物をはじめ、クローバー、イチゴ、キャベツなど多くの植物に寄生する。 しばしば白っぽい壁の人家に大挙し、住居内に侵入することがある。世界に広く分布する。</p>
<p>住民が街灯の柱にゴケグモらしいクモを2個体発見した。 (6月)</p>	 <p>成虫、灰色、約9mm</p> <p>腹面に赤い斑紋あり</p>	<p>ハイイロゴケグモ (クモ目)</p>	<p>体は褐色または灰色で個体差がある。腹部背面の正中線上に4個の斑紋がある。腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。全世界の熱帯、亜熱帯、温帯の一部に分布する。 (※)</p>

相談内容・発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
<p>ハイイロゴケグモが発見された街灯のボックス内に卵嚢を1個確認した。 〈6月〉</p>	 <p>卵嚢、乳白色、約10mm</p>	<p>ハイイロゴケグモの卵嚢 (クモ目)</p>	<p>ハイイロゴケグモの卵嚢は、特有の金平糖状の形をしている。</p>

(※) 【参考】ゴケグモに注意

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/seikatsu/kokyo/gaichu/seakagokegumo.html>

(横浜市健康福祉局ホームページ)

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

公衆浴場水の水質検査結果(令和2年度)

箱根に代表される神奈川県内の温泉源泉総数608^{*1}のうち、横浜市内には50余りの温泉があり公衆浴場施設や老人保健施設等の浴槽水として利用されています。水系感染症を予防するため温浴施設の利用水には塩素系消毒剤を注入しており、日常の残留塩素濃度管理^{*2,3}が重要です。令和2年度に公衆浴場施設の残留塩素の管理状況を把握する目的で行った1施設の水質検査結果を報告します。この施設の温泉系統は結合残留塩素、井水系統は遊離残留塩素で残留塩素濃度の管理を行っています。結合残留塩素は遊離残留塩素と比べて消毒効果が低いため、高い濃度での管理に努めています。

- *1 環境省自然環境局 令和元年度温泉利用状況
- *2 公衆浴場法施行条例 横浜市条例第46号 平成24年9月25日
- *3 公衆浴場法施行細則 横浜市規則第67号 昭和61年6月23日

1 対象施設および試料

- (1) 対象施設: 公衆浴場施設
 - (2) 採水日: 令和2年7月、10月、11月
 - (3) 水試料: 水試料を原水(温泉・井水)の給水系統別に温泉10か所、井水22か所から採水しました。
 - (4) 塩素剤: 次亜塩素酸ナトリウム(温泉前塩素用・井水前塩素用・浴槽浄化装置用)を採取しました。
- なお、現地調査及び採水は福祉保健センターの協力を得て行いました。

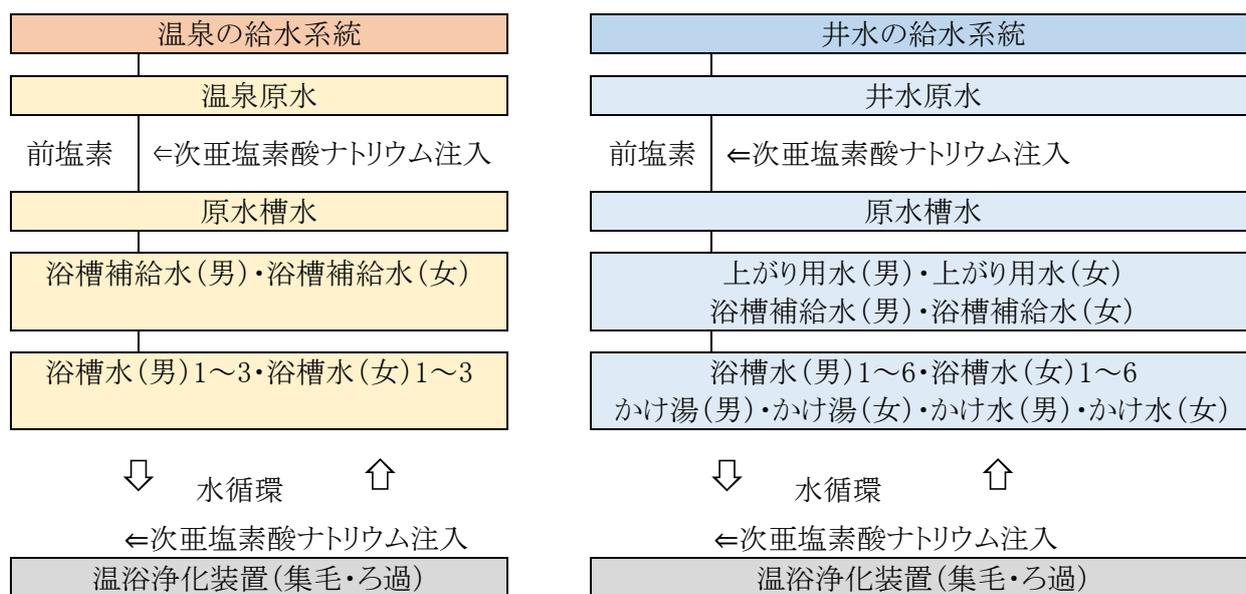


図 給水の流れ・循環ろ過工程および採水地点

2 検査項目

- (1) 水試料: 遊離残留塩素、結合残留塩素、有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)、TOC、濁度、pH、色度、アンモニア態窒素など 消毒効果に影響を及ぼす46項目
- (2) 塩素剤: 有効塩素濃度、塩素酸、臭素酸、pH

3 公衆浴場法衛生措置の基準

浴槽水の消毒及び浴槽水等の水質基準を抜粋して表1に示しました。ただし、温泉等を使用する場合であって、基準を適用することが困難で、かつ、衛生上危害が生ずるおそれがないと市長が認めるときは、基準を適用しないことができます。

表1 浴槽水の消毒及び浴槽水等の水質基準(一部抜粋)

	遊離残留 塩素濃度 (mg/L)	結合残留 塩素濃度 (mg/L)	過マンガン 酸カリウム消 費量(mg/L)	TOC (mg/L)	濁度 (度)	pH	色度 (度)	アンモニ ア態窒素 (mg/L)
原水・上がり用 湯・上がり用水	—	—	10以下	—	2以下	5.8 以 上 8.6 以下	5以下	—
浴槽水	0.2以上	—	25以下	—	5以下	—	—	—

—:水質基準なし

4 検査結果

(1)温泉系統の検査結果

7月の検査時は浴槽水において結合残留塩素が5.9～6.2mg/L検出されていました。10月の温泉系統の検査結果を抜粋して表2に示しました。温泉原水に含まれるアンモニア態窒素7.8mg/Lと注入した次亜塩素酸ナトリウムが反応して、原水槽水には結合残留塩素が8.3mg/L生成したことが確認されました。結合残留塩素が浴槽補給水(男)・(女)では7.8mg/L・7.4mg/L検出され、浴槽水では6.2～6.9mg/L検出されました。7月、10月とも良好な残留塩素管理状況でした。

表2 温泉系統の検査結果(一部抜粋)

	遊離残留 塩素濃度 (mg/L)	結合残留 塩素濃度 (mg/L)	過マンガン 酸カリウム消 費量(mg/L)	TOC (mg/L)	濁度 (度)	pH	色度 (度)	アンモニ ア態窒素 (mg/L)
令和2年10月								
温泉原水	0.1未満	0.1未満	57	10	0.12	8.2	170	7.8
原水槽水	0.1未満	8.3	75	12	0.1未満	8.2	230	7.8
浴槽補給水(男)	0.1未満	7.8	78	14	0.11	8.3	230	7.6
浴槽補給水(女)	0.1未満	7.4	78	13	0.11	8.3	240	7.6
浴槽水(男)1	0.1未満	6.9	79	16	0.16	8.5	220	6.5
浴槽水(男)2	0.1未満	6.7	77	14	0.15	8.4	230	6.8
浴槽水(男)3	0.1未満	6.9	80	15	0.18	8.5	220	6.5
浴槽水(女)1	0.1未満	6.3	75	14	0.13	8.5	220	6.3
浴槽水(女)2	0.1未満	6.3	78	14	0.12	8.6	230	6.3
浴槽水(女)3	0.1未満	6.2	75	13	0.15	8.5	230	6.5

(2)井水系統の検査結果

井水系統は7月と比べて10月は多くの浴槽水から遊離残留塩素が検出されるように改善されました。10月の検査結果を抜粋して表3に示しました。

【井水原水・原水槽水・上がり用水・浴槽補給水】

井水原水に含まれるアンモニア態窒素1.6mg/Lと注入した次亜塩素酸ナトリウムが反応してアンモニア態窒素が0.1mg/L未満にまで減少したことが確認されました。原水槽水では結合残留塩素は0.1mg/L未満、遊離残留塩素が0.77mg/L生成していました。上がり用水(男)・(女)ではいずれも遊離残留塩素が1.2mg/L検出され、浴槽補給水(男)・(女)では0.80mg/L・1.1mg/L検出されました。

【浴槽水_炭酸】

浴槽水(男)1・(女)1はいずれも遊離残留塩素が0.1mg/L未満であったため、他の浴槽との違いを調

査すると、両者には炭酸ガスが注入されていました。このためにpH5.5とpH5.7を示し、他の浴槽水と比べてpHが酸性側に変化していました。また、浴槽水(男)1では有機汚染物の指標である過マンガン酸カリウム消費量が22mg/Lを示し水質基準25mg/Lに近い値でした。浴槽水(男)1については有機汚染物が蓄積しやすい傾向が認められたため、補給水量を増やすことや浴槽水の換水間隔を短くするよう提案しました。

【浴槽水】

浴槽水(男)2～浴槽水(男)6では遊離残留塩素が0.13～0.59mg/L検出され、浴槽水(女)2～浴槽水(女)6では遊離残留塩素が0.14～0.81mg/L検出されました。遊離残留塩素が0.2mg/Lより低い浴槽水(男)5・浴槽水(女)2については常に0.2mg/L以上が確保できるように管理することが望ましいと考えられます。

【かけ湯・かけ水】

かけ湯(男)・(女)は遊離残留塩素が0.16mg/L・0.1mg/L未満で、かけ水(男)・(女)の0.90mg/L・0.92mg/Lと比べて低く、水温の高い湯は遊離残留塩素濃度が低下しやすい傾向を示しています。

表3 井水系統の検査結果(一部抜粋)

令和2年10月	遊離残留 塩素濃度 (mg/L)	結合残留 塩素濃度 (mg/L)	過マンガン 酸カリウム消 費量(mg/L)	TOC (mg/L)	濁度 (度)	pH	色度 (度)	アンモニ ア態窒素 (mg/L)
井水原水	0.1未満	0.1未満	1.5	0.38	0.1未満	8.1	2.1	1.6
原水槽水	0.77	0.1未満	0.67	0.38	0.1未満	7.8	2.5	0.1未満
上がり用水(男)	1.2	0.1未満	0.73	0.39	0.1未満	7.8	3.4	0.1未満
上がり用水(女)	1.2	0.1未満	0.98	0.38	0.1未満	7.8	3.5	0.1未満
浴槽補給水(男)	0.80	0.1未満	0.83	0.36	0.1未満	7.8	3.0	0.1未満
浴槽補給水(女)	1.1	0.1未満	0.92	0.38	0.1未満	7.9	3.3	0.1未満
浴槽水(男)1_炭酸	0.1未満	0.56	22	6.8	0.19	5.5	2.5	0.1未満
浴槽水(男)2	0.44	0.24	6.6	3.8	0.21	8.0	3.4	0.1未満
浴槽水(男)3	0.49	0.29	5.8	2.7	0.25	8.4	3.7	0.1未満
浴槽水(男)4	0.59	0.20	5.6	2.8	0.12	8.4	2.0	0.1未満
浴槽水(男)5	0.13	0.24	4.4	2.4	0.26	8.0	3.9	0.1未満
浴槽水(男)6	0.34	0.36	6.7	2.9	0.12	7.9	3.5	0.1未満
かけ湯(男)	0.16	0.1未満	1.1	0.51	0.21	7.9	3.3	0.1未満
かけ水(男)	0.90	0.1未満	1.1	0.47	0.17	7.9	3.5	0.1未満
浴槽水(女)1_炭酸	0.1未満	0.44	7.5	3.7	0.11	5.7	2.7	0.1未満
浴槽水(女)2	0.14	0.1未満	5.1	2.2	0.1未満	8.2	2.1	0.1未満
浴槽水(女)3	0.70	0.14	3.1	2.0	0.11	8.4	2.2	0.1未満
浴槽水(女)4	0.81	0.14	2.9	1.9	0.1未満	8.5	1.2	0.1未満
浴槽水(女)5	0.43	0.25	6.2	2.9	0.10	8.2	2.1	0.1未満
浴槽水(女)6	0.37	0.13	3.3	1.7	0.15	8.0	3.4	0.1未満
かけ湯(女)	0.1未満	0.1未満	0.92	0.84	0.21	8.2	3.2	0.1未満
かけ水(女)	0.92	0.1未満	0.92	0.40	0.16	7.9	3.3	0.1未満

【遊離残留塩素管理状況において検出される結合残留塩素】

結合残留塩素は原水槽水・上がり用水・浴槽補給水・かけ湯・かけ水では0.1mg/L未満でした。しかし、浴槽水(男)1～6では結合残留塩素が0.20mg/L～0.56mg/L、浴槽水(女)1・浴槽水(女)3～6では0.13mg/L～0.44mg/L検出されました。ヒトが入浴する浴槽水で検出された結合残留塩素*4～6は汗や尿などに含まれるアンモニア態窒素と次亜塩素酸ナトリウムが反応したため生成しています。遊離残留塩素で管理している井水系統において検出された結合残留塩素は三塩化窒素*7や有機クロラミン類と推定され、目や上気道の刺激・臭気などの影響があるため生成されないことが望ましく、遊離残留塩素濃度を常に維持することで結合残留塩素の生成量を最低限に抑えることができます。

*4 水泳プール総合ハンドブック 第2版 平成27年 pp172-173

*5 レジオネラ対策-こうすれば安心 レジオネラ防止対策研究会編 泉書房 2003年発行 pp127

*6 温浴浄化装置の基準書 pp2

*7 Schmalz C, :Trichloramine in swimming pools -Formation and mass transfer.Water Res.Vol45,pp2681-2690,2011.

(3) 塩素系消毒剤の検査結果

塩素系消毒剤の検査結果を表4に示しました。温泉系統の前塩素用を使用している次亜塩素酸ナトリウム*8は納品時には有効塩素濃度が12%以上の商品ですが、屋外に貯蔵されていることもあり補充後の日数が経過するにつれて1.55%～7.55%に低下していました。納品後2週間程度で使用することが望ましく、気温の高い夏季は早めに使い切れるように、1回の納品量を減らし、補充間隔を狭めるなどの提案をしました。浴槽水とろ過装置の循環浄化過程で注入している次亜塩素酸ナトリウムは施設内で電気分解式次亜塩素酸ナトリウム生成装置を用いて食塩から製造しており0.368%、0.414%でした。

*8 水道用次亜塩素酸ナトリウムの取扱い等の手引き(Q&A) 平成20年3月 社団法人 日本水道協会

表4 塩素系消毒剤の検査結果

	補充後の日数	有効塩素濃度 (%)	塩素酸 (mg/kg)	臭素酸 (mg/kg)	pH
温泉(前塩素用)12%	7月 46日目	4.86	12,000	49	13.1
	10月 70日目	1.55	16,000	29	12.7
	11月 26日目	7.55	8,000	31	13.0
井水(前塩素用)12%	7月 前日	10.7	15,000	60	13.2
	10月 前日	12.4	6,000	31	12.9
浴槽浄化装置用 0.4%	7月 常時生成	0.368	69*	8.1*	9.3
	10月 常時生成	0.414	73*	8.8*	9.3

* 単位はmg/L

【 理化学検査研究課 環境化学担当 】

衛生研究所WEBページ情報(令和3年6月)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和3年6月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和3年6月の総アクセス数は、221,759件でした。前月に比べ22.3%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*82.9%、保健情報11.1%、生活環境衛生1.6%、食品衛生1.3%、薬事1.1%、検査情報月報0.5%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

6月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「ぎょう虫(蟯虫)症について」、3位は、「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」でした。8位には、最近の流行を反映して、「RSウイルスによる気道感染症およびパリビズマブ(シナジス)について」が入っています。

表1 令和3年6月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	80,223
2	ぎょう虫(蟯虫)症について	9,308
3	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	5,051
4	大麻(マリファナ)について	4,771
5	トキソプラズマ症について	4,170
6	EBウイルスと伝染性単核症について	3,663
7	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,556
8	RSウイルスによる気道感染症およびパリビズマブ(シナジス)について	3,489
9	死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について	3,406
10	フルーツジュース(果汁)と下痢について	3,376

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/alphabet/gbs1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和3年6月の問い合わせは、4件でした(表2)。

表2 令和3年6月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
アスペルギルスについて	1
ぎょう虫(蟻虫)症について	1
トキソプラズマ感染症について	1
性病検査について	1

2 追加・更新記事

令和3年6月に追加・更新した主な記事は、13件でした(表3)。

表3 令和3年6月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
6月 2日	全国熱中症患者救急搬送状況(2020年)	更新
	全国熱中症患者救急搬送状況(2021年)	掲載
6月 4日	熱中症情報(2021年6月3日)	掲載
6月 8日	熱中症情報(2021年6月7日)	掲載
6月10日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第2回)	更新
6月15日	保健統計データ集・標準化死亡比(SMR)	更新
	熱中症情報(2021年6月14日)	掲載
6月22日	熱中症情報(2021年6月21日)	掲載
6月23日	全国熱中症患者救急搬送状況(2021年)	更新
6月24日	横浜市感染症臨時情報(RSウイルス感染症、第24週)	掲載
6月25日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第3回)	更新
6月28日	熱中症情報(2021年6月28日)	掲載
6月30日	感染症に気をつけよう(7月号)	掲載

横浜市感染症発生動向調査報告(令和3年6月)

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数は、第19週(5月10日～16日)以降漸減傾向です。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が増えています。
- RSウイルス感染症の流行開始時期が例年より早く、報告数が急増しています。2003年調査開始以降、もっとも報告数が多くなっています。(臨時情報を発出します。)

◇ 全数把握の対象

〈6月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	68件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
アメーバ赤痢	1件	水痘(入院例に限る)	1件
ウイルス性肝炎	3件	梅毒	12件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	破傷風	1件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が4件、O168が1件(無症状病原体保有者)、O111が58件(うち10件が無症状病原体保有者)、O不明が5件(すべて無症状病原体保有者)の報告がありました。O111では同一集団内での報告がありました。
- 2 E型肝炎: 1件(無症状病原体保有者)の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型2件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症1件の報告がありました。異性間性的接触による感染が推定されています。
- 5 ウイルス性肝炎: B型の報告が2件、EBVの報告が1件ありました。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 7件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件の報告がありました。創傷感染が推定されています。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): いずれも男性で、AIDS1件(異性間性的接触による)、無症状病原体保有者1件(同性間性的接触による)報告がありました。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)、80歳代の報告が2件(ワクチン接種歴無が1件、ワクチン接種歴1回有が1件)ありました。
- 10 水痘(入院例に限る): 60歳代の臨床診断例の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 11 梅毒: 早期顕症梅毒Ⅰ期6件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、晩期顕症梅毒1件の報告がありました。男性10件、女性2件で、性的接触(異性間9件、同性間2件、詳細不明1件)による感染が推定されています。
- 12 破傷風: 60歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。

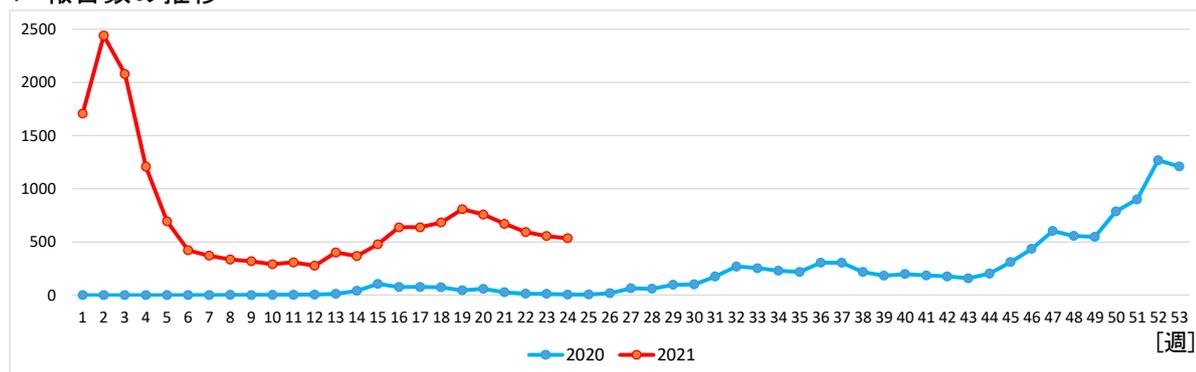
◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第21週～第24週に横浜市から報道発表のありました症例は2353件でした。

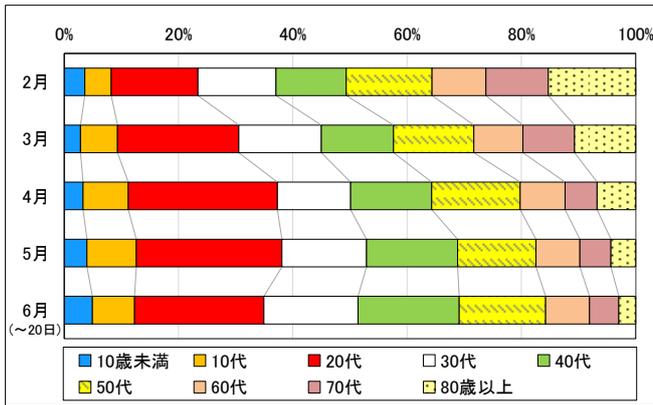
◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

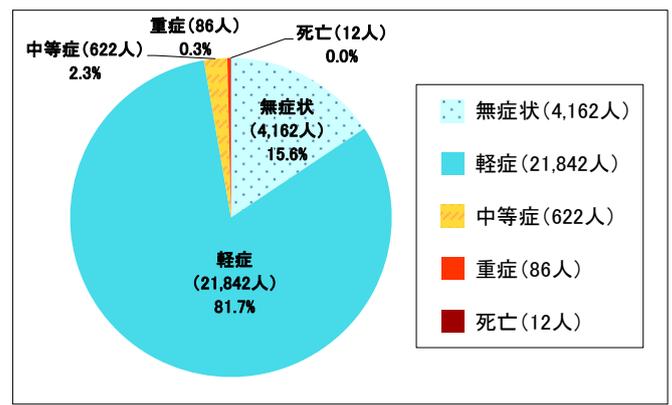
1 報告数の推移



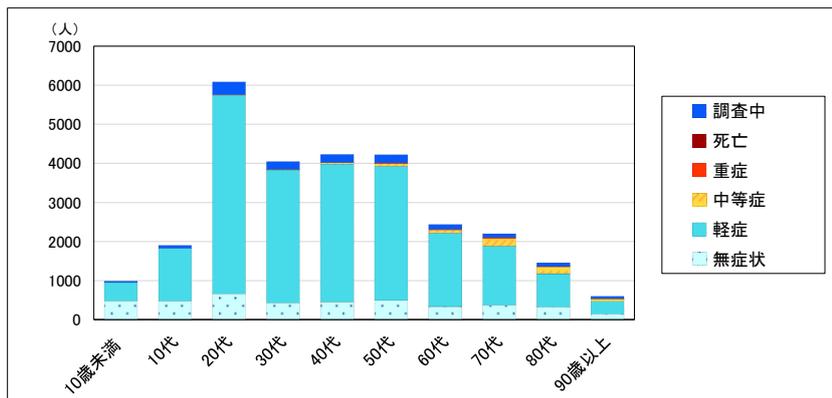
2 年齢別割合



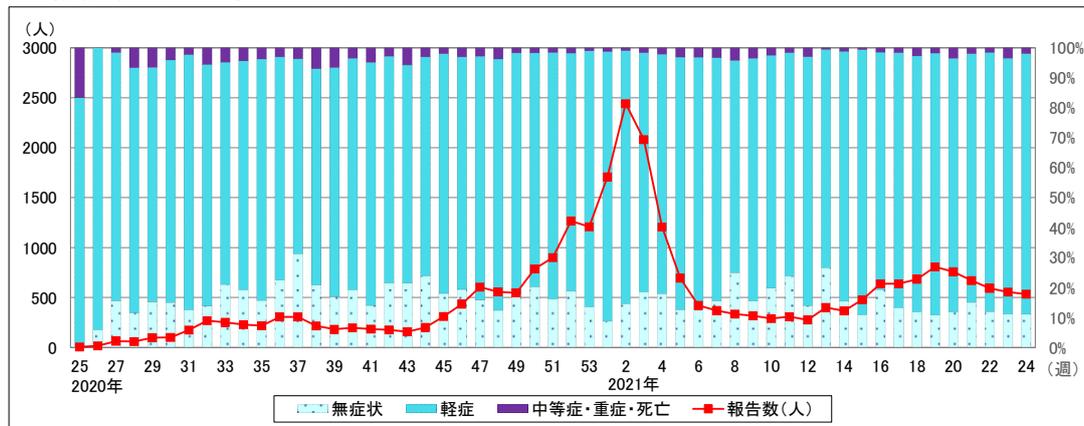
3 陽性確定時の症状の割合



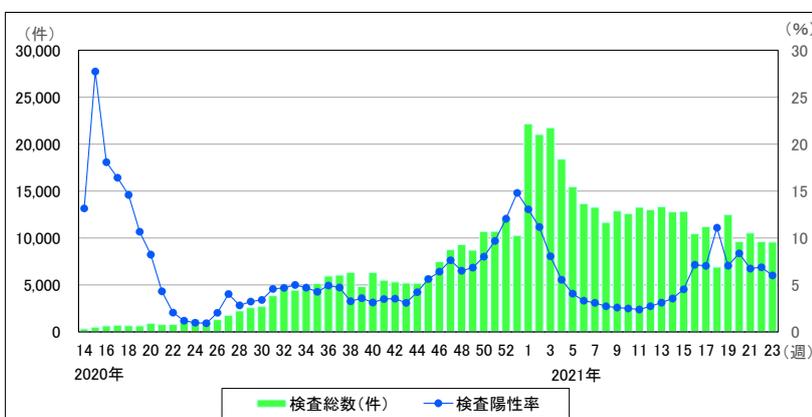
4 陽性確定時の症状別人数(年代別)



5 報告数と届出時点の症状



6 市内における新型コロナウイルス検査実施状況



※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、
接触者外来、市衛生研究所の
検査数の合計

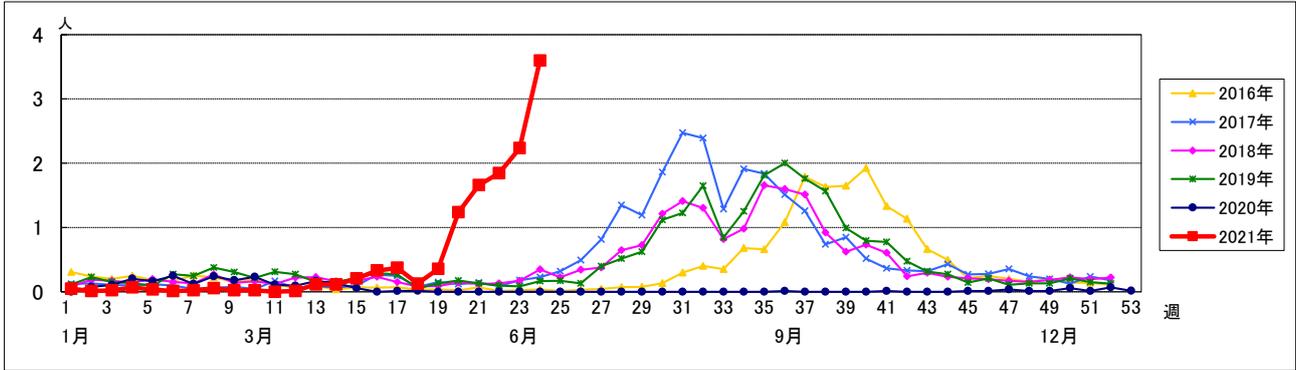
7 変異株の検出状況

神奈川県 新型コロナウイルス感染症による患者確認について
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r7391113.html>

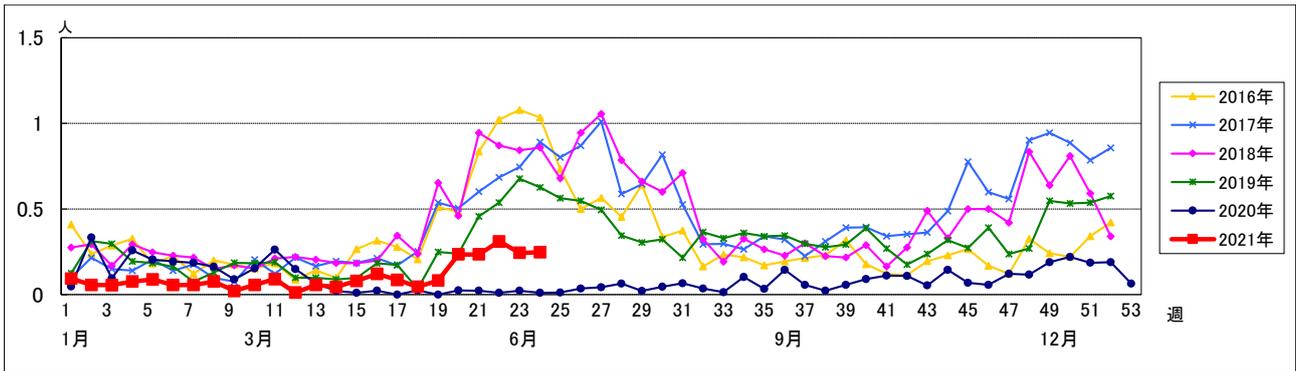
報告週対応表	
第21週	5月24日～5月30日
第22週	5月31日～6月6日
第23週	6月7日～6月13日
第24週	6月14日～6月20日

◇ 定点把握の対象:

1 RSウイルス感染症: 第16週0.33、第19週0.35でしたが、その後増加し、第22週1.84、第23週2.23、第24週は3.60でした。



2 咽頭結膜熱: 例年この時期に多くの報告がみられていますが、第16週0.12、第19週0.08、第20週0.24の後は横ばいで、第24週は0.25でした。



3 性感染症(5月)

性器クラミジア感染症	男性: 24件	女性: 11件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 8件	女性: 11件
尖圭コンジローマ	男性: 3件	女性: 3件	淋菌感染症	男性: 18件	女性: 3件

4 基幹定点週報

	第21週	第22週	第23週	第24週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.50
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.33	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

6月期(2021年第21週～第24週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件、内科定点2件、眼科定点3件、基幹定点2件、定点外医療機関からは1件でした。

アデノウイルス1型分離2株、アデノウイルス2型分離3株、アデノウイルス5型分離1株及びライノウイルス遺伝子1件、ノロウイルスG2遺伝子1件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2021年第21週～第24週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	主な臨床症状				
	上気道炎	下気道炎	胃腸炎	アデノウイルス咽頭扁桃炎・RSウイルス気管支炎	アデノウイルス感染症
アデノウイルス 1型	1 -	1 -			
アデノウイルス 2型	2 -				1 -
アデノウイルス 5型				1 -	
ライノウイルス		- 1			
ノロウイルス G2			- 1		
合計	3 -	1 1	- 1	1 -	1 -

上段:ウイルス分離数

下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

6月期(2021年第21週～第24週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、放線菌1件、レンサ球菌1件、非定点からサルモネラ属菌2件、バンコマイシン耐性腸球菌3件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、非結核性抗酸菌(NTM)1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌12件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌10件の依頼がありました。「分離同定」の検査依頼は医療機関からレプトスピラの検査依頼が10件、保健所からレジオネラ2件の検査依頼がありました。小児科定点からは消化器系病原菌1件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2021年第21週～第24週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella aerogenes</i> (2)	
	放線菌	1	<i>Nocardia brasiliensis</i> (1)	
	レンサ球菌	1	<i>Streptococcus mitis</i> group (1)	
医療機関	サルモネラ属菌	2	<i>Salmonella</i> Typhimurium (1)、 <i>Salmonella</i> Enteritidis (1)	
	バンコマイシン耐性腸球菌	3	<i>Enterococcus faecium vanA</i> (3)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 (1)	
	非結核性抗酸菌(NTM)	1	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (1)	
保健所	腸管出血性大腸菌	12	O157 : H7 VT1 VT2 (2)、O157 : H- VT1 (1)、 O121 : H19 VT1 (1)、O111 : H- VT1 (1)、 OUT : H+ VT1 VT2 (1)、OUT : H+ VT1 (2)、 OUT : H- VT1 (1)、OUT : H- VT2 (1)、 OUT : H18 VT1 (1)、OUT : H+ VT2 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	10	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (9)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
医療機関 定点	全血	レプトスピラ	3	レプトスピラ遺伝子 不検出(nested PCR) (3)
	血清	レプトスピラ	5	レプトスピラ遺伝子 不検出(nested PCR) (5)
	血漿	レプトスピラ	1	レプトスピラ遺伝子 不検出(nested PCR) (1)
	尿	レプトスピラ	1	レプトスピラ遺伝子 不検出(nested PCR) (1)
保健所	喀痰	レジオネラ	2	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)、不検出(1)
小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	消化器系病原菌	1	不検出 (1)	